

教育相談担当より



● 適応指導教室「いおう教室」

教室では、一人一人の個性や気持ちを大切に基礎的な学習や体験活動、製作的活動、面談等を行い、学校生活への適応を援助します。

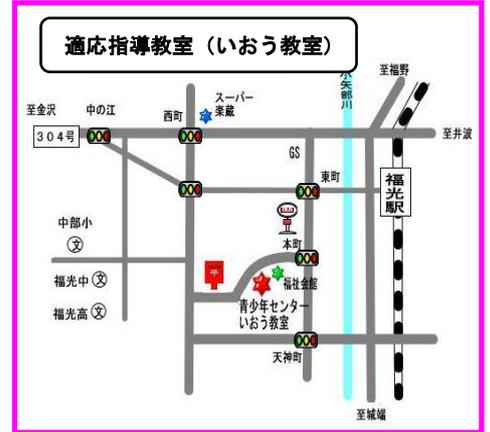
【場 所】 福光青少年センター3階（南砺市福光1137-2）

【電 話】 52-5593

【開設時間】 9:00～15:00（月～金）

【指導員】 松村 朝美 先生 中山 登 先生
大浦 香代 先生 定塚 治美 先生

4人の指導員が児童生徒の支援や保護者の相談に応じています。
お問合せは南砺市教育センターまでお願いします。



● 教育相談のつどい

専門の先生による、保護者対象の個別相談会です。毎回、開催前に案内プリントを学校に配布します。子育てでお困りの保護者の方にぜひお知らせください。

第1回 5月27日(土) 第2回 6月 3日(土) 第3回 7月 1日(土) 第4回 9月16日(土)
第5回 10月14日(土) 第6回 11月25日(土) 第7回 1月27日(土) 第8回 2月24日(土)

【助言者】 富山大学保健管理センター 准教授 西村優紀美 先生
臨床心理士・精神保健福祉士 大浦 暢子 先生

【開催場所】 1回 井波総合文化センター 3、5、7回 福野文化創造センター（ヘリオス）
2、4、6、8回 福光福祉会館

【時 間】 10:00～15:00

【申 込 み】 南砺市教育センター相談専用電話（82-8301）

● その他の相談会

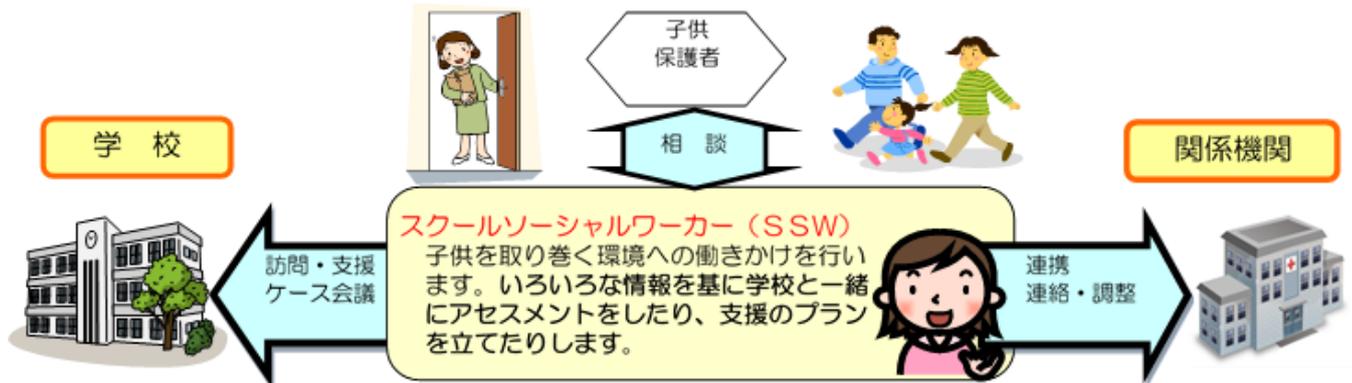
「言語の発育に関する相談」や「にこにこ相談会」があります。詳しくは、4月に学校にお届けした「子育て相談のご案内」リーフレットをご覧ください。（申込みは、各相談担当の専用電話にお願いします。）ご質問等ございましたら、南砺市教育センターまでお問合せください。

スクールソーシャルワーカーは、学校現場をサポートします

こんなときに相談を！

- ・不登校
- ・いじめ
- ・保護者対応等のつなぎ役

子供や保護者の支援だけでなく、先生方の「困り感」を少なくするために、支援や関わり方について共に考え、行動します。専用電話で相談や質問にも応じています。



研修担当より



1 以下の委員会を設け、調査研究を進めます。

体力づくり委員会	体力づくり対策・小中連携課題に対する取組推進、報告書作成
理科科資料委員会(小学校)	小学校理科資料「流れる水」の改訂作業
学習内容系統図作成委員会	小中学校における社会科の内容系統図作成

2 研修事業として以下のことを行います。

事業名	期日・時間	対象	内容
南砺市教育研究大会	8月10日(木) 13:45~16:30	悉皆	内容:これからの学校教育改革をリードする道徳教育 ~『特別の教科 道徳』を要として 講師:武庫川女子大学 教授 押谷 由夫 先生 会場:井波文化センター メモリアホール
学力向上研修会	6月30日(木) 13:30~16:30	教務主任又は 研究主任	内容:29年度全国学力・学習状況調査の検証と対策 講師:県学力向上推進チーム 主任研究主事 福原 達 先生 会場:井波庁舎3階 多目的ホール
ふるさと学習研修会	7月31日(月) 13:30~16:30	市内小中学校 初任勤務者	内容:歴史文化施設めぐり【福光地区】 講師:福光美術館学芸員会 見学場所:福光美術館、棟方志功記念館「愛染苑」、 社会福社会館等(案)等
教育セミナー (学級づくり研修会)	8月21日(月) 13:30~16:30	4~10年次 教職員 及び希望者	内容:学級づくりの基本~どの子ども居場所となる学級づくり~ (仮) 講師:名城大学 教職センター 教授 曾山 和彦 先生 会場:井波総合文化センター 第1会議室
国語活動・英語科 研修会	8月24日(木) 13:30~16:30	市内5・6年担 任及び中学校 英語科教員	内容:小学校の「英語科」創設で、中学校区の小中の 一貫性をどう図っていけばよいか ~全てはグランド・デザイン次第~ 講師:関西外国語大学 英語国際学部 教授 中嶋 洋一 先生 会場:井波庁舎3階多目的ホール

3 砺波地区教育センター(砺波、小矢部、南砺)の協業事業として以下の研修があります。

① 生徒指導研修会 7月26日(水)

『スマホ時代の子ども現状と対策』

講師:ソーシャルメディア研究会

チーフ研究員 石川 千明 先生

会場:井波庁舎

② 特別支援教育研修会 7月27日(木)

『合理的配慮に基づく

インクルーシブ教育の充実(仮)』

講師:金沢星稜大学 人間科学部

教授 河野 俊寛 先生

会場:小矢部市総合会館

① ②は13:30、③は14:00開始

③ 資質能力向上研修会 7月28日(金)

『社会人としてのマナー(仮)』

講師:よしともコミュニケーションズ(株)

講師 秋田 幸子 先生

会場:砺波市立砺波東部小学校

詳しくは6月中旬に送付する研修要項をご覧ください。多くの方の自主的な参加をお待ちしています。



平成 29年度のセンター所員です。1年間よろしくお願ひいたします。近くにお越しの際には、お気軽にお立ち寄りください。

- ◇ 所 長 城 岸 毅
- ◇ 指導主事 高 田 公 美
- ◇ 助 手 小 又 時 美
- ◇ スクールソーシャルワーカー 菊 地 章 子
- ◇ スクールソーシャルワーカー 吉 田 美 司 子
- ◇ 特別支援コーディネーター 酒 井 久 美 子



(後列) 酒井 吉田 小又 菊地
(前列) 高田 城岸

教育センターが行うサービス（一部）



拡大教材等の作成

教科書や副読本、資料等の拡大印刷（A1・A2判）、4つ切色画用紙への直接印刷、垂れ幕・横断幕作成等ができます。（パワーポイントで作成したデータを共有サーバ上にご準備ください。）



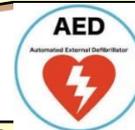
スクールバスの活用

校外学習の際に、スクールバスの使用が可能です。ただし、各学校の下校時間に支障がないよう14:30には帰校できるよう計画してください。また、出発の**2週間前まで**には利用申請書の提出をお願いします。

教科書・図書資料の貸し出し

教育センターには教科書が揃っています。現在採用されているものはもちろん、それ以外の教科書も準備しています。また、特別支援教育や特別活動に関する図書、ソーシャルスキルトレーニング絵カード等の貸出も行っています。どうぞご利用ください。

教育センター



視聴覚教材・備品等の貸し出し

砺波視聴覚協議会のDVDの貸し出しを行っています。タブレット（8台）、ビデオ一体型プロジェクター等の貸し出しも行っていきます。利用を希望される場合は、早めに電話で問合せをいただき、事前予約をお願いします。校外学習の際にはAEDもご活用ください。

図書室が変わる?! ～「学校司書研修会」～

右の写真は、どこだと思われますか。写真ではその魅力をお伝え切れないのが残念ですが、これは、井口小学校の図書室の様子です。大人でも、図書室に誘い込まれ、まるで宝の山の中を冒険するような気分になりました。ここを会場に「学校司書研修会」を実施しました。講師の井波小学校 司書助手 高山美香先生には、配架やレイアウトのアイデアをたくさん教えていただきました。参加された司書助手の皆さんは、「できるところから自校にも取り入れたい。」と意欲的に話をしてられました。ぜひ、図書室の掲示、レイアウト等に工夫を見付けられたら、司書助手の方に声をかけてみてください。



新年度が始まって約2か月が経ちました。それぞれの職場で新しい出会いがあったことと思います。私事で恐縮ですが、通勤の道が変わり、ある小学生と朝、ときどき出会います。その小学生は、横断歩道の手前で停車する私にぺこっと頭を下げて足早に渡っていきます。そして、渡り終えるときりと向きを変えもう一度深々とおじぎをしてくれるのです。かわいらしい笑顔を添えて。この小学生と会った朝は、不思議と「今日もがんばろう」という気分になります。「自分の気持ちを態度で届ける」ということを教えてもらった気がしています。新しい出会いには、「新しい学びがある」そんなことを感じながら、慣れた

教育センターだより



南砺市教育センター



「仕事ができる人」の第一歩は……

南砺市教育センター 所長 城岸 毅

平成29年度が始まり、2か月になろうとしています。そろそろ、仕事の書類が机にうずたかく積み上がってきていないでしょうか？そして時々、置いたはずの書類が見つからず、パニックになることがないでしょうか？いい年なのに「整理整頓」ができない自分に自己嫌悪を感じることはないでしょうか？

江戸時代の国学者本居宣長という人には、家の書棚から明かりをつけずに必要な本を取り出すことができた、「どこそこの書棚の右から何番目にこんな本がある」と言われて弟子が取りに行くと言われた、と確かにその本があった、というエピソードがあります。

このエピソードは、昔の知識人の記憶力のよさとして語り継がれていたようですが、「それはただ宣長の整理のよさを物語っているだけで、整理がしっかりできている人ならば、これくらいのことは誰だってできる。」という辛口の意見もあります。

ここでいう「整理」とは、散らかっているものをきれいに片付けることではありません。それは「整頓」に当たります。「整理」とは、必要なものが必要なときにすぐ取り出せる状態にすることを言います。

つまり、見た目はきれいに片付いているのに、必要なときに必要なものがすぐ取り出せない人は「整頓はできるが整理ができない人」ということになり、机の上や書棚が一見乱雑に見えていても、必要なときに必要なものがすぐに取り出せる人は「整頓はできない

が整理はできる人」と言えます。両方できない人もいられるでしょうが、整理整頓、両方できていることが一番望ましいわけです。

社会人として「整理」ができていると、少なくとも「仕事ができる人」に見えます。しかし、これも習慣なので「1日にして成らず」です。できれば子供のときに、遅くとも社会人になる前の準備期間に意識して習慣づけておくというのではないのでしょうか。（自己反省を込めて）

「中高生のための『かたづけ』の本」の著者杉田明子さんは、次のように言っておられます。

まず「置き場所」が決定されていなければならぬ、複数ある引き出しについて、それぞれ「何の引き出しなのか」を決め、それ以外のものは絶対に入れない。例えば、パソコンの周辺機器を入れる引き出しにボールペンや電卓などが入ってはいけません。

「置き場所」が決まったら、次は「置き方」ということを考えなさい。例えば、書類や本は絶対に横にはしない。書類はハードファイルに入れて立てる。こんな原則を守るだけで恐ろしいほど「整理」ができる。

実は、「整理」は精神衛生の問題としても捉えることができます。探し物が見つからない苛立ちを解消できるという点からです。

まだ1学期途中です。遅ればせながらも「整理整頓」に心がけ、さりげなく「仕事のできる自分」をアピールしてみませんか…。